

エクセリーベ 高齢者メンタルヘルス事業開始

タブレット活用 プロが見守り

飛躍カンパニー

タブレット端末でお年寄りの悩みを心の専門家がやさしく受け止める。そんな高齢者向け対話サービスをメンタルヘルス(心の健康)対策事業のエクセリーベ(東京都新宿区)が始めた。高齢化や核家族化の進行を背景に独居老人の孤立化問題が深刻化するなか、問題解決の一助を担いたい考えだ。

サービス名は「見守りん」。産業カウンセラーや臨床心理士などメンタルヘルス分野の専門家が、独居老人の個別相談などに応じる。専門家と高齢者を結ぶタブレット端末は、米アップルの「iPad(アイパッド)」

だ。センサーやメールで高齢者の様子を見守る民間サービスなどが相次ぎ登場しているが、心の専門家とタブレット端末の組み合わせは国内初という。

同社は、パソコンが苦手な人に配慮し、スタッフが自宅を訪問して端末の設置から細かくサポートする。操作は簡単で、専門家からの呼び出し音に反応し、画面に指で触れるだけだ。

対話は、アイパッドのインターネット無料通話ソフト「スカイプ」を利用して行う。具体的には、専門家が高齢者に対し、希望の曜日や時間帯に約5分間の定期連絡を行う。さらに専門家が、月4コマ(1コマ30分)の頻度で友人感覚で対話するメニューも用意した。

仮に独居老人が「買い物に付

き添ってほしい」といった悩みを打ち明けたい場合、専門家が連絡してくる指定の時間帯に待機し、画面上の「応答」ボタンに触れる。次に、専門家の表情を画面で見ながら、買い物の援助を求める流れだ。

独居老人は、1人暮らしに心細さを感じる一方、親から離れて暮らす息子や娘に心配をかけたくないと考える傾向にある。専門家は、そうした立場を考慮し、対話を通じて浮き彫りになった「救いの声」を必要に応じて家族らに報告する。

価格は、専門家との面談や端末設定などを含む初期費用が3万1500円。その上で、9975円のサービス利用料を毎月支払う。端末は顧客負担だ。

総務省によると、高齢者人口

「見守りん」を利用する女性。サービスの有効性は東京都千代田区立高齢者センターでの体験会で確認済みだ



に占める独居老人の比率は年々増加し、2010年に16.4%(479万人)に達した。これに伴い安否確認のニーズが増えているが、自治体による見守り支援が行き届いていないのが実情。こ

れを踏まえ大橋総代表取締役は「まずは高齢者人口が多い東京23区の自治体などに提案し、先事例を積み上げたい」と話す。

(白井慎太郎)